

北部変質帯は、下部白亜系及び貫入岩類(閃緑岩、花崗斑岩)中に分布し、珪化、セリサイト化、プロピライト化、及び酸性変質(カオリン・明礬石・パイロフィライト)からなる。本変質帯では黄鉄鉱の鉱染と褐鉄鉱化が普通に認められるが、石英脈の発達は局部的であり、その一部は玉髄質である。本変質帯中には、E-W系の安山岩岩脈が分布する。

中央部変質帯は、中・上部ジュラ系に貫入した安山岩質斑岩及び下部白亜系中に分布し、珪化、セリサイト化、プロピライト化、及びカオリン化からなる。本変質帯では黄鉄鉱の鉱染と褐鉄鉱・赤鉄鉱化が普通に認められ、石英脈の発達は悪いが、NW-SE方向の珪化帯が発達する。この珪化帯の方向は、本地域のリニアメントの卓越方向に一致する。

南東部変質帯は、ジュラ系中・上部に貫入した花崗閃緑岩岩体の西側に沿って主としてジュラ系中に分布する。同境界部及びその西側にはN-S系のリニアメントが存在し、変質帯はこの2本のリニアメントに挟まれて分布する。本変質帯は、主として、珪化及びセリサイト化からなり、褐鉄鉱化が普通に認められる。本変質帯の北部では、幅約1mの不規則な磁鉄鉱脈がジュラ系中に約100mにわたってN-S方向に胚胎する。また、本変質帯南部のジュラ系中には、石英細脈が散在するが、その一部には緑色酸化銅鉱物、黄銅鉱、黄鉄鉱等が伴われ、黒雲母化変質も認められる。

西部変質帯は、ほぼ花崗斑岩質岩体に一致して分布し、珪化及びセリサイト化からなるが、鉱石鉱物は認められない。

岩石地化学異常として注目されるのは、南東部変質帯のAu-Cu-Zn-As高異常であるが、その分布は局部的である。

2-7 ティグナマール地域

本地域の地質図をFig. 2-2-31に、模式地質柱状図をFig. 2-2-32に、鉱徴位置図をFig. 2-2-33に、変質鉱物分布図をFig. 2-2-34に、岩石地化学異常分布図をFig. 2-2-35にそれぞれ示した。

本地域の地質は、古生界、上部白亜系・下部第三系、上部第三系及び上部第三系・第四系からなる。

古生界は、堆積岩起源と火山岩起源の変成岩、及び片麻岩からなる。

上部白亜系・下部第三系は安山岩質～流紋岩質の溶岩・火砕岩及び陸上堆積物の挟みからなる。

上部白亜系・下部第三系は白亜紀または第三紀の貫入岩類に貫かれる。この貫入岩類は、花崗閃緑岩及び斑岩類からなる。上部白亜系・下部第三系及び上記貫入岩類は上部第三系により不整合に覆われる。

上部第三系は新第三系中新統・鮮新統の流紋岩質～玄武岩質の溶岩・火砕岩・イグニンプライト及び陸上堆積物の挟みからなる。

上部第三系・第四系は、新第三系鮮新統・第四系更新統の安山岩質～玄武岩質の溶岩・火砕岩からなり、新第三紀・第四紀の貫入岩類に貫かれる。この貫入岩類は、デイサイト～斑岩か